

指定管理者制度導入施設 年度評価シート

評価年度	令和5年度
------	-------

1 基本情報

公の施設名	相模原市立南障害者地域活動支援センター
指定管理者名	社会福祉法人かむ
指定期間	令和5年4月1日から令和10年3月31日（5年間）
施設設置条例	相模原市障害者地域活動支援センター条例
施設の設置目的	精神障害者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、相談支援を行い、創作的活動又は生産活動の機会を提供し、社会との交流の促進を図るとともに、日常生活に必要な便宜の供与を行い、もって精神障害者の福祉の増進に寄与するため、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）第5条第27項に規程する地域活動支援センターとして相模原市立南障害者地域活動支援センターを設置する。（条例第2条）
施設概要	所在地：相模原市南区南台4丁目12番54号（市営南台団地4号棟1階） 開館時間：火曜日、水曜日及び金曜日は午後1時から8時まで 土曜日、日曜日及び休日は午前10時から午後5時まで 休館日：月曜日及び木曜日、12月29日から翌年の1月3日まで 年間開所日数：255日 主な設備：フリースペース、キッチン、ダイニングルーム、相談室、静養室、多目的室、ボランティア室、浴室、洗濯コーナー、事務室、倉庫、駐車場、自転車置場
施設所管課	健康福祉局 地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課

2 管理実績

項目（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
利用者数合計（人）	4,285	5,211	4,709				
利用料金合計（円）	25,750	30,400	107,610				
収入総額（円）	30,352,114	30,628,366	34,272,647				
支出総額（円）	26,571,220	32,241,868	34,133,654				

3 成果指標の達成度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
D	指標を新たに設定したが、前年度に引き続きD評価となっているものの、成果指標の達成度としては改善が見受けられる。次年度以降も更なる評価改善を推進し、達成度の上昇に努められたい。

指標1	
指標名（単位）	利用人数及び総合相談人数 単位：人
指標式と指標の説明	年間延利用者数 + 総合相談延べ人数 利用率の向上に向けた指標

項目（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値（人）			14,000	14,500	15,000	15,600	16,200
実績値（人）	12,898	13,746	11,070				
達成度（%）			79.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

4 事業の実施状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
A	基本相談支援、計画相談支援、地域交流事業など、地域活動支援センターⅠ型として適切に運営されている。利用登録者数は、前年度と比べて39名増加し延べ1,101名となった。引き続き、南区の精神障害者支援の拠点として、利用者に必要な支援を行ってほしい。

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
基本相談支援事業	通年	面接相談、電話相談、連携、個別支援会議、同行、訪問。相談件数は合計3,308件（前年度4,583件）。そのうち、面接相談は737件（前年度1,472件）と半減している。電話相談は2,378件（前年度2,327件）であった。連携は78件、個別支援会議は1件となっている。また相談内容を多い順に並べると、不安の解消や情緒安定、社会参加や余暇活動、家族関係や人間関係、障害や病気の理解、福祉サービスの利用、健康や医療、就労、家計や経済、生活技術、保育や教育や権利擁護となっている。*家族相談は22件であった。	◎
計画相談支援事業	通年	【指定特定相談（計画相談）】 対象者74人（前年81人）。相談支援専門員3名で対応。相談件数の合計は3,053件（前年度3,952件）。そのうち、面接相談は329件（前年度514件）、電話相談は1,505件（前年度1,772件）、連携は908件（前年度1,224件）、訪問は153件（前年度151件）、同行は64件（前年度37件）、個別支援会議は20件（前年度15件）となっている。	◎
地域相談支援事業	通年	【指定一般相談（地域移行）】 対象者0人。但し、地域移行支援事業の契約はせずに、計画相談支援の対象者として精神科病院からの退院支援は引き続き行ってきた。 【指定一般相談（地域定着）】 対象者0人。	○

生活支援事業	通年	<p>自立した日常生活及び社会生活を送るための援助の提供。プログラムの実施と入浴及び洗濯に関する支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の延べ来館者数4,709人（前年度5,211人）。 ・一日の平均来館者数18.5人/日（前年度20.5/日） ・新型コロナの影響で中止していた食事は、自立支援というセンターの目的に立ち返り、食事を提供する形から、食に関するスキルアップを目的とした支援に移行して再開。 <ul style="list-style-type: none"> ○プログラム（月に1回カレーの日） 12回実施、延べ参加者数66人 ○プログラム（作って食べようおいしいご飯） 12回実施、延べ参加者数28人 ○キッチン面談 申込みなし ○キッチン開放日 9回実施、延べ参加者数21人 <ul style="list-style-type: none"> ・入浴の延べ利用者数は184人（前年143人） ・洗濯の延べ利用者数は20人（前年度3人） <p>【その他プログラム】合計168回実施、延べ参加者数493人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出企画 25回実施、延べ参加者数110人 ・集い 12回実施、延べ参加者数56人 ・生保交流会 12回実施、延べ参加者数53人 ・HealAth CLUB 12回実施、延べ参加者数52人 ・清掃ボランティア10回実施、延べ参加者数41人 ・他に、生活教室、グループセッション、メイクの時間、就労ミーティング、キャリアカウンセリング、編み物手芸、散歩、映画鑑賞、季節のイベント、○○の世界、家族支援を実施。 <p>*HealAth CLUBは、禁煙、減量、節約等の目標に向かって継続参加者が多く、効果が上がっている。 *清掃ボランティアも人気で南台団地住民から感謝されている。 *SST、男性会議、女性会議は新型コロナウイルス感染症の影響で通年中止。</p>	○
地域交流事業	通年	<p>地域住民との交流を通じた障害者の社会参加の促進、市民の障害に対する理解の促進。</p> <p>【FESTAみなみ風】10月22日 コロナで中止しており4年ぶりの開催。来場者数は165人（市民130人、利用者35人）。地域交流を目的として開催している。模擬店や演者などには毎年多数の事業所や団体の協力を得ており、地域住民の精神障害者理解に役立つものと自認している。</p> <p>【団体連携、団体支援】 相模原市精神障害者家族会みどり会の賛助会員として毎月定例会に出席し、情報提供及び収集、相談に対応した。</p> <p>【さがみハート展】 精神障害者が書いた詩を題材に、市民画家や学生が絵を描き、絵と詩をひとつの作品として市内各地で展示することで、精神障害者の社会参加促進、市民の精神障害者理解が深まるイベントである。当センターは、カミングと共に実行委員会事務局の役割を担い、作品募集、パネル作り等展示会準備、会場設営及び片づけ、巡回展の準備及び連携、協賛企業挨拶回り等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本展は11月30日～12月4日に開催。展示作品数60点、来場者数710人であった。 <p>【相模台福祉まつり】 地区社協理事として1名参加、利用者2名ボランティアとして参加。</p>	◎

情報提供事業	通年	市内の社会資源の紹介、機関紙の発行、ホームページ（さがみはら地域ポータルサイト）上での情報発信。 市内外の福祉事業所や訪問看護ステーション、当事者会関係団体、社会福祉協議会、精神保健福祉行政、求人、その他の情報を館内に常設。雑誌「こころの元気」と新聞（朝刊）を定期購読しフリースペースに常設。	○
ピアサポート事業	通年	精神障害者ピアサポートグループ「ピアカム」の活動支援 ・ピア面接相談（第2日曜日と第4土曜日） 担当ピアカムメンバー5名 24回実施、延べ相談件数21件 ・ピア電話相談の支援（火曜日と金曜日の17時～20時） ・ピアカム話し合い（毎月第1日曜日） ・ピアトーク in みなみ風 2回開催、延べ15名参加 ・ピアサポーター養成研修 4回開催、15名参加 ・ピア相談員フォローアップ研修 2回開催、4名参加 仲間と共に活動する中で共感し意見を交わしながら、お互いが支えとなり、リカバリーを促進することに大きく役立っている。	○
その他の事業	通年	【就労に関する支援】 ・就労に関する相談は441件（前年度422件）。障害者職業センター、ハローワーク、就労移行支援事業所等と連携した。 ・キャリアアカウンセラー相談会 隔月開催（延べ参加者数12人） 【地域との連携】 相模台地区社協の理事として、児童障害者部会に所属し、理事会や部会の他、研修、催事に出席。自治会役員や民生委員、地域包括支援センター職員他と連携し活動している。 【関係機関との連携】 ・精神障害者地域生活支援ネットワークを開催。精神科医療機関、就労支援事業所、共同生活支援事業所、居宅介護事業所、相談支援機関が集まり、精神障害者の現状と課題を共有検討している。4回開催、延べ参加者数66名（構成機関数46）	○

企画提案事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
(なし)			

自主事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
(なし)			

5 利用者の満足度

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
B	目標値に対する達成度が90%以上100%未満のため、B評価となった。昨年度と比較すると、達成度は1.6ポイント上昇しているものの、実績値が2.4ポイント減少しているため、次年度以降は、実績値を改善し、利用者満足度を高めることを期待する。

利用者満足度調査	
調査手法/サンプル数	令和5年に1回以上の利用があった者に対するアンケート調査/対象者数286名、配布数227名、回収数127名
目標値の基準	「満足している」「おおむね満足している」と回答した人の割合の合計

項目 (単位)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和10年度
目標値 (%)	93.5	94.1	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績値 (%)	87.2	87.7	85.3				
達成度 (%)	93.3%	93.2%	94.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容

6 施設の経営状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
S	指定管理施設を運営するに十分な経営規模、財務能力を有する。資金流動性、自己資本比率は高水準で安定している。収支についても営業利益率及び経常利益率はプラスとなっている。以上のことから、団体本体の経営状況については、特段の課題はないと判断する。

施設の収支概要		※直近3年間について記載			(千円)
項目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
収入 (a)		30,352	30,628	34,273	
	指定管理料	26,892	26,925	31,730	
	利用料金収入	26	30	108	
	その他の収入	3,434	3,673	2,435	
支出 (b)		26,571	32,242	34,134	
	人件費	20,185	24,548	28,157	
	本社管理経費	1,159	1,151	1,588	
	その他の支出	5,227	6,543	4,389	
本体事業収支 [(a)-(b)] (c)		3,781	-1,614	139	
自主事業収入 (d)		0	0	0	
自主事業支出 (e)		0	0	0	
自主事業収支 [(d)-(e)] (f)		0	0	0	
全体収支 [(c)+(f)]		3,781	-1,614	139	
備考					
団体の財務状況	団体本体の経営状況について特段の問題はない。				

7 管理業務の履行状況

検査方法	施設所管課職員による現地視察
実施時期	令和6年1月16日

検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成	有
-----------	---

ウェブアクセシビリティの取組項目	取組状況
機種依存文字を使っていない。	○
ページ内の文字の大きさを変えることができる。	○
単語の途中にスペースや改行を入れていない。	○
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。	○
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。	×
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。	×
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。	○
その他取り組んでいること	

9 指定管理者の自己評価

年間の来館者数は令和4年度の約1割減となっており、一日平均来館者数も1割減となった。新規の利用登録者数は延べ1101人となっている。

相談支援事業については、相談件数は基本相談と指定相談を合わせて6,361件で、令和3年度の1.3割減となった。一日平均の相談件数は、面接相談が7.8件で電話相談は15.3件となり、どちらも1割減となった。訪問と個別支援会議はほぼ同じであり、同行は倍増、関係機関連携は3割減となった。

生活支援事業については、食生活を考え主体的に食事作りに参加するプログラムが定着してきている。プログラムについては、企画から実施まで利用者が中心となって活動する「外出企画」が定着し、のべ110名が参加したことを評価したい。企画会議では活発な話し合いが行われ、さまざまな場面で利用者間の交流が生まれている。引き続き利用者主体のエンパワメントプログラムを実施していきたい。

ピアサポート事業においては、ピアとして相談を受ける力をつけたいというメンバーの意思がピアカムグループを成長させていると感じられる。

職員体制としては、常勤5名のうち1名が8月末から、もう1名が2月から休職となり、年度末までは厳しい状況の中で業務に取り組んできた。職員体制を盤石なものにすることが課題である。

利用者満足度調査の結果については、「満足」が85.3%となっており、「満足していない」理由としては「フリースペースが過ごしづらかった」が増加しているが、フリースペースでどのように過ごしたいかという利用者それぞれの思いが様々で十人十色であることを表していると考えている。利用者が不快な思いすることがないように、都度必要な対応をしていく。

10 所管課意見

令和5年度は、現行指定期間の初年度であったが、過去の指定管理者としての経験を活かし、堅実に施設の管理運営を実施していた。

南区における精神障害者地域活動支援センターとして、相談支援事業、生活支援事業、地域交流事業などを実施しており、施設の役割を果たしていると評価する。

一方、相談件数も多く、対応業務も多岐にわたるところであるが、職員体制の整備等により、更なる業務対応の質の向上に取り組まれない。

11 選考委員会意見

本施設は、南区の精神障害者支援の拠点であり、相談を受ける体制を確保することは必要であるので、職員体制を早めに整備していただきたい。

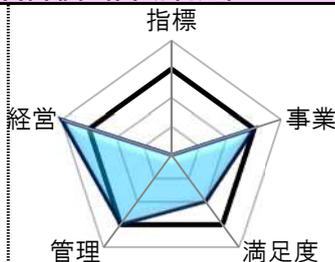
利用者減少については、アウトリーチによる対象者の掘り起こしなどにより対応ができればよいと考える。

リカバリーやエンパワメントを引き出すようなプログラムをしている点は、評価できる。

今後も引き続き、利用者寄り添った支援を行い、精神障害者のQOLやウェルビーイングの向上に努めていただきたい。

総合評価（自動判定）

B



(60/100)